

# Structure Kansai No.24 '89.7

## 「社団法人 日本建築構造技術者協会」設立

5月30日、永い間の念願であった法人化の実現に向けて、日本建築構造技術者協会の設立総会が行われ、7月1日付で社団法人として認可された。構造家懇談会によって8年の歳月の間に築き上げられた基盤は、新協会に継承され、建築構造設計・監理実務者の過半数を結集する職能団体として公認されることとなった。既にその評価は確立されては居たが、任意集団から職能を代表する団体への法人化の意義は大きく、今後協会は、その存在の重さを認識されるであろう。我が関西支部に於ては、新参加の会員を迎え一段の活性化と充実を図り、新協会の活動を推進すべく、諸企画が進められている。(樋口元一)

### 法人化を迎えて

支部長 久徳敏治

ようやく法人化を達成いたしました。思えば長い道程でした。一つの念願を成就させるにはしじみと時間の重みというものを感じました。この間、法人化の是非について多くの議論も沸騰しましたが、全員の充分の理解が得られたとも考えられておらないようです。しかし、事が成就するには、タイミングという味方も必要です。私達はモラルと技術の向上を目とし、地位の向上を夢みながら、この8年間励んできたと思います。しかしながらこの間、さしたる大震災もなく、平穏な日々を過ごしてきた反面、社会の人々に私達の役割を十分に理解し、認識していただく機会も稀れでありました。私は私達の地位の向上には、社会に私達を理解していただくことが必須の条件であるとの考えに至りました。そのためには、まずは法人化という一人前の資格が最低の条件ではなからうかと、法人化を支持してきましたが、この度、社団法人“日本建築構造技術者協会”の成立をみました。

この新しい衣替えにより、飛躍的進展と斬新な運営を期待したいものです。それにつけても、正会員数2500人余を擁する所帯、会員各位の参画意識を喚起する方策が何にもまして会を盛り上げる栄養であろうと考えております。支部会員各位の絶大なる協力をお願いいたします。

しかし思い返せば、失ったものも多くはないと思います。例えば格形式だった名称などはその最いたるものです。初心は構造家懇談会という名称がいみじくも示していると理解しております。しかし、今後、体は社団法人“日本建築構造技術

者協会”、心は“構造家懇談会”と、当初の目標に向かってさらなる飛翔を望みたいと祈願いたします。



設立総会

副支部長 能勢善樹

1年前に法人化はほぼ確実と言われていたのが、今度こそ現実のものとなった。構造家懇談会ができてから8年目だから、むしろ特別に早かったのではないかというのが偽らざる感想である。時節柄、新法人を作るのに消極的な建設省を踏み切らせた法人化委員会や中枢の方々の努力は並大抵のものでなかったに違いない。その背後には建築構造の仕事に携わる専門家の存在を無視し得なくなった社会情勢があったと考えてよいのではないか。ただ、この間の交渉は本部の特別委員に全権を委任して進めざるを得なかったから、われわれ関西支部は何事も東京中心のトレンドに身を任せるごとく、少し活動が停滞気味であったのも止むを得ないことだったかもしれない。新法人の協会が十分機能してゆくかどうかの要所は支部の地域活動であろう。構造技術者と一般社会の係わり方、社会に対するわれわれの責任と権利のアピールを地域から起さなければ、他のいかなる人もする筈はない。関西風土のもつ新しい発想力と実行力を潤沢でない予算の中で発揮してゆくのは容易なことではないが、会員

の中の新しい人材に参加をねがうことによって、組織に活性を与える事が必要と思われる。新たなスタート点に立つ今、道は長く遠いから着実に進もうではありませんか。お互いに忙がしい体ですから、より多くの方に分担していただいて、われわれの会として実感できるものにしたものです。関西支部は会員の皆様への何らかの参加を期待し、必要としています。

副支部長 青柳 司

構造家懇談会が発足してから8年が経ち待望の法人化が成立するまでになりました。技術委員会の各分科会は、発足以来研究会的に活動してまいりましたが、社団法人“日本建築構造技術者協会”としての技術委員会としては、今迄のような研究的活動に加えて、社会的に認知された建築構造技術者の先端集団としての任務である、社会へ向っての提言・提案、外部からの相談に対しての処理、また学生や新人に対しての教育・指導や啓蒙などの仕事を行ってゆかなくてはなりません。関西支部の技術委員会としましても、組織・運営の見直しを行う機会でもあり、会員の皆様方の意見を聞きながら、活動的にかつ開かれた技術委員会にして行きたいと思っています。

日本建築構造技術者協会になり、新しい会員も相当数増えると思いますので、新入会員も対象としたアンケートを行ったりして、新しい方向を見い出して行っはどうかと考えています。

今年の技術委員会の活動は、今迄通り行おう一方で、次の方向が来年までに出せれば良いのではと思っています。

会員の皆様方の活発な御意見と提案を期待しています。

本部総会・懇親会風景

丸岡義臣

構造家懇談会が設立され満8年、元号も平成と新ためられ時の重みを感じられる折に、会員諸兄の永年の願望であった法人化に見通しがたった第9回構造家懇談会通常総会が、また7月1日付で建設省より認可が得られるであろう「社団法人 日本建築構造技術者協会」の設立総会が5月30日東京のホテルニューオータニにおいて開催された。

社団法人 日本建築構造技術者協会 設立総会記念懇親会



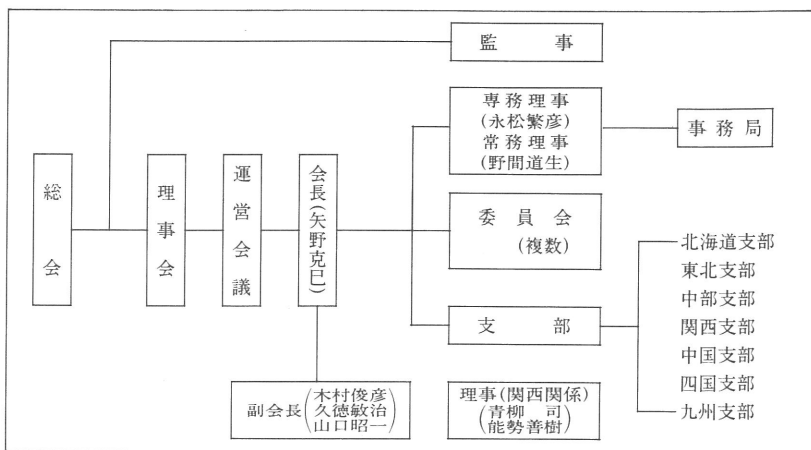
懇親会風景

総会は、美の経済、心と技術の調和を保ちつつ建築機能を達成し、自然の災害から人命と文化を守るという重責を担った構造設計者が、社会的に認知されるという歴史的意義もあり会員多数が緊張なおももちで参集し、「我が国の構造設計者の技術と伎倆を錬磨し、その進歩・改善を図り、社会公共の福祉増進に寄与する。」ことを今後の大きな活動目標とし会員一同努力することを力強く決議した。

引続いて開催された「社団法人 日本建築構造技術者協会」設立記念懇親会においては、設立総会記念講演会でTHE INFLUENCE OF MATERIALS ON ENGINEERING DESIGN —構造設計は材料によってどう変わるか— を講演したピーター・ライス氏、建設省住宅局長伊藤茂史氏、日本建築士会連合会長 太田和夫氏 他各界の多くの方々から祝辞を受け、また会員諸兄においても会場のあちこちで互いに構造設計をつうじて社会文化の向上にどのように寄与するか真剣な討議がなされ大変有意義な会となった。

●事務局よりのお知らせ

“構造家懇談会”から“日本建築構造技術者協会”への衣替えの過渡期にあたり、本会の平成元年度事業計画の立案や



社団法人 日本建築構造技術者協会 組織図

会員数増加の推移

林 保

構造家懇談会は昭和56年5月に設立されて以来もはや8年が経過しました。そして今は既報のごとく、建築構造設計者の任意団体から社団法人 日本建築構造技術者協会へと発展移行しました。

それに関連して、過日は皆様方に会員増加についての御協力を戴き有難うございました。社団法人設立許可の条件の一つに会員数の最低ライン規制がありプレス発表時の矢野会長の言によると「現在一級建築士で構造設計に従事している人が約一万人。その中でも会員として然るべき人は約五千人だとし、したがって会員数は当面、過半数を超える必要がある。」とのことでした。

では会員数の増加の状況について述べますと、過去5年間にさかのぼり正会員の増加の状況および関東・関西支部の会員比率を整理すると下表のようになります。

正会員数の増加状況(平成元年5月末現在)

区分	年度	S 59 (3/31現在)	60 (同左)	61 (同左)	62 (同左)	63 (同左)	H 1 (同左)	1 (5/30現在)
全国正会員		695	770	851	1,052	1,173	1,365	≒2,000
関東地域正会員	*1	392	426	464	556	608	724	1,028
関西地域正会員	*2	127	136	157	177	196	213	247
*2/*1比		0.32	0.32	0.34	0.32	0.32	0.29	0.24

註) 関東地域 S59-61年度分については関東・東北の合計会員数を示す。

予算措置及び会計処理に関して本年度は変則的にならざるを得ません。支部事務局では本部の会計処理方針に合せて、原則として次のように致します。

- 構造家懇談会 平成元年度予算 4月1日～6月30日
- 日本建築構造技術者協会 予算 7月1日～3月31日

## 新 組 織 に 思 う

## 新組織に期待する

真塚達夫

新組織といっても、本の表紙がかわって内容が同じでは自民党とかわらない。精鋭2500人の構造技術者の集まりであるからサロンでなく社会的に存在価値をアピール出来る中身にと。会員の増強よりも年々減少していかないようにするには質の向上であり、会員各自の小さな努力の積み上げで魅力ある会にしたいものである。

近畿支部は会誌講読会員の集まりではない。支部独自の活動を積極的に進めて法人化に合わせ「個人の会」から「社会への会」へ脱皮し、社会への働きかけも進めたい。がその前に私達の仕事をわかり易く素人に説明出来るよう、また質問にわかり易く答えることを心がけたい。

私達の仕事を身体にたとえれば骨格+筋肉の分野とも云える。いかなる美女も土台がしっかりせず厚化粧だけでは夜の蝶である。頭の中身はもちろんだがスリムなボディ造りは構造技術者の楽しみである。骨格と筋肉を学んだ画家のデッサンには迫力があり、構造を学んで空間を構成する建築家の作品は不朽である。

会員が年々減っていくのがこの種の団体の常である。将来の会員で、後継者である学生へのキャンペーンも各企業を越えて新しい組織が統合して行い、会が質量共に益々発展したいものである。

## 構造教育に生かす

須賀好富

構造家懇談会から日本建築構造技術者協会と名前が変わり法人になりました。とても嬉しいことです。私はこの会に当初から入っていますがお蔭様で同じ仕事を職業とする友人がふえました。また、この会により、技術的な面で新しい情報が入ることが有難いです。講演会、見学会等お世話頂く人は大変ですが今後も関西の構造界のレベルを上げるために新しい企画をお願いしたいものです。

私は大学の研究室に籍をおいています。この会から得た情報を教育に生かす

ことに気をつけています。

学生は新しい情報には目を輝やかせませす。古い構造力学が新しい建築構造に生かされていくその応用の仕方に共感をもつのでしよう。

構造に進む学生が年々少なくなっていく現状を鑑み、少しでも構造に興味をもたせることも私の役目と思っています。法人成立を契機に尚一層の活力を期待します。

## 共通の絆を忘れずに

内田直樹

よい建築物を創りたい。そのためにはよい構造設計をしたい。さらに設計技術のレベルアップを図りたい。この情熱こそが我々の団体のメンバーを結びつける共通の絆であると信じています。

組織の異なる多くの仲間と意見の交換をすることができました。また、海外の仲間とも輪を広げる足掛かりを掴むこともできました。

これまでの活動を通じて、共通の認識を確かめ合うことができ、同時に立場の違いを理解し合うことの大切さも学びました。これが今後の活動の貴重な教訓になると思われます。

やっと形は整いました。これからはメンバーの真の力量が問われる筈です。各自が日常で参画している構造設計に全力を打ち込んで、質の高い建築物を社会におくり出すことが全ての原点になると思われます。

## 構造屋から構造家そして建築構造技術者

松谷輝雄

構造家という新語も8年が経過して日本建築構造技術者と称する団体の社団法人に衣替えした。もともと、企業内では自他ともに構造屋と呼んでいた。他企業の構造屋が会するとき、そこには業務というフィールドで、企業の利害関係を伴っていることが多かった。その構造屋たちが仲間意識をもって懇談会という文字どおり自己啓発の場としての組織を作った。

その会員を構造家と自称し、社会的に認知されてきた。

この集団は企業を離れて、建築技術というフィールドで、差はあっても個人の利関係(害は無いので)で結ばれている。

この構想を通じて、企業外構造家との多くの出会いを持った構造屋が多かったのではなかろうか。

さて、社団法人の肩書きの付く新しい組織に発展した。社会的責任も、道義もその分だけ重くなる。政治的な発言も団体で出来るようになる期待が持てる。

いま、構造家という呼称が構造技術者になり、懇談会が協会と呼ばれる。

耳慣れないせいか、私は構造家という響きが好きである。しかし個人では何かと存在する足かせが不自由である。

個人では何も出来ない。

その足かせを時間を掛けて取り除ける組織に育って欲しい。

## 「新協会」への期待

木林長仁

衣替えの季節とともに「構造家懇談会」を引き継ぐ形で新協会が設立され、構造技術者の職能集団として社会的にアクセプトされることになるが、この間の手続きに多大の努力を払われた関係の方々には敬意を表したい。

情報化社会の中で、法規・規準の整備やパソコン等の高級ツールの普及により技術の平準化が進み、また情報メディアからの過剰ともいえる情報受信に追われ、「何を造りたいか」の意識は却って不透明になっているのではなかろうか。

このような時代の職能集団としての「新協会」には、技術者が共通の言語で語りあい、議論を通じて情報の内容を吟味して、内外からの評価に耐えるまでに高揚した情報を発信できる集団になることを期待する。そのためには、自分達の作品に対する評論を行う場が必要だと思う。そうすることにより、より広い意味での社会からのアクセプタンスが得られるようになるのではないかと考える次第である。

■関西支部事業会計報告

去る5月30日、本部に於いて“日本建築構造技術者協会”が設立され、7月1日付で法人認可されました。それにともない支部総会の開催時期は例年より大巾に遅れております。そこで、昭和64年度の構造家懇談会としての事業報告・会計報告及び平成元年度分の事業計画・予算に関し、本来なら支部理事会の承認を経て支部総会の承認が必要ですが、前述の事情で支部総会の開催が遅れているので、4月26日開催された支部理事会で承認を受けたものを取りあえず本紙上で報告することにしました。

■昭和63年度事業報告(4/1~3/31)

月日	委員会	内 容
4/22	支部理事会	62年度事業及び決算報告、63年度事業及び予算計画
5/20	PC分科会	
5/24	鉄骨分科会	
5/24	コンピュータ分科会	アーキプロの検討
5/21	海外研修会	大韓建築学会との懇談、オリンピック施設、古墳公園見学
~24	(ソウル・慶州etc.)	
5/26	ゴルフ親睦会	伏尾G.C 参加者34名
6/8	JSCA賞選考委員会	62年度JSCA関西構造家賞の選考
6/20	海外研修報告会	海外研修の報告
6/22	広報委員会	支部報 No22の企画
7/20	支部理事会	支部総会の運営 他
7/20	支部総会	法人化の現状報告
	(出席者 34名)	62年度 JSCA 関西構造家賞表彰
	(委任状 87通)	齊藤幸雄氏(日建)・福本早苗氏(大林)
7/20	定例研究会	「制振構造」参加者 79名 ・制振構造の State of The Art 司会 井上 豊(大阪大学) ・実例 鶴飼 邦夫氏(日建) 中川 佳久氏(安井) 深野 慶氏(大林) 向井 久夫氏(竹中) ・まとめ 南井良一郎(京都大学)
7/20	懇親会	総会終了後開催 参加者 57名
7/25	鉄骨分科会	ホテルオークラ現場見学
7/26	コンピュータ分科会	
9/16	PC分科会	半PC床版の収集
9/27	コンピュータ分科会	
10/25	事業委員会	後半期の活動について
10/25	広報委員会	
11/9	技術委員会	本部技術委員会報告、分科会の編成 他
11/17	ゴルフ同好会	伏尾G.C 参加者 33名
11/18	PC分科会	半PC床版の収集
11/19	現場見学会	高見フローラルタウン7番街15棟
11/22	同上	同上
11/26	囲碁同好会	「爛柯」参加者 15名
12/3	現場見学会	(仮)和泉市立コミュニティ体育館 関西新空港埋立工事 参加者 51名(関西PC研究会と合同) 鈴木 阪大教授、国技 京大助教授の参加
12/11	基礎分科会	
12/21	支部理事会	後半期の活動
1/19	コンピュータ分科会	
1/20	PC分科会	
2/6	基礎分科会	大阪の地質について
2/8	RC分科会	定例研究会の準備 テーマ「コンクリート建築構造物の工業化の現状と将来」
2/21	講演会	「木の文化・石の文化」 講師 京都大学名誉教授 横尾義貴氏 15時~17時 参加者 45名 AEC展パネル展示
2/21	懇親会	参加者 45名
2/22	鉄骨分科会	鉄骨溶接ロボットについて-日本溶接協会との懇談
3/6	コンピュータ分科会	コンピュータセンター見学

■平成元年度事業計画

- 総会 1回
- 理事会 2回
- 懇親会 2回
- 委員会
  - 総務・事業・技術委員会 各2回
  - 広報委員会 8回
  - 技術委員会分科会
  - 鉄骨・RC・PC・基礎・コンピュータ・耐震各分科会共2ヶ月に1回程度開催
- 研究会
  - 定例研究会 2回
  - 現場見学会 4回
  - 海外研修会 1回
  - シンガポール他
- 支部会報「Structure Kansai」4回発行
- 講演会 1回
- 親睦会
  - ゴルフ同好会 2回
  - 囲碁同好会 1回
- 会員拡充

■昭和63年度決算書及び平成元年度予算書

		昭和63年度 決算書		平成元年度 予算書
		自 昭和63年4月1日 至 平成元年3月31日		自平成元年4月1日 至平成2年3月31日
科 目		予算額	決算額	予算額
収	前期繰越金	246,383	246,383	9,787
	交付金収入	2,550,000	2,100,000	3,500,000
	支部会費	0	0	0
	支部諸会合費	500,000	485,000	500,000
	支部研究会費	100,000	2,750	100,000
入	雑収入	10,000	26,273	25,000
	収入合計	3,406,383	2,860,406	4,134,787
支	人件費	600,000	600,000	720,000
	旅費交通費	0	0	0
	通信費	50,000	73,710	100,000
	事務費	50,000	14,720	100,000
	印刷費	50,000	0	50,000
	雑費	200,000	196,450	200,000
	支部総会費	100,000	74,500	200,000
	支部理事会費	50,000	76,315	50,000
	支部委員会費	800,000	357,379	800,000
	支部諸会合費	600,000	682,800	600,000
	支部研究会費	400,000	486,825	500,000
	支部会報費	500,000	287,920	500,000
予備費	0	0	300,000	
後期繰越金	6,383	9,787	14,787	
支出合計	3,406,383	2,860,406	4,134,787	

発行 日本建築構造技術者協会関西支部事務局  
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112